

第1学年 学級活動指導案

日時 平成20年10月8日(水) 5校時
 生徒 男子 9名 女子 15名 計 24名
 授業者 一関市立猿沢中学校 教諭 丹野しおり

1 題材名 「生き方いろいろ、十人十色」 (領域 意思決定能力)

2 題材について

(1) 題材設定の理由

キャリア教育で目指す生徒の姿は、「自らの人生に前向きに臨み、自己の個性をよりよく発揮しながら社会的な自己実現を図ろうとする主体性を身に付けている人間」「多様な考え方や情報を適切に判断、処理したり思考したりしながら、自己の考えを確立できる人間」である。

しかし、生産活動や社会性等における未熟さ、進路意識や目的意識が希薄なまま「とりあえず」進学してしまう若者の増加など、子どもの生活や意識が変容してきている。新規学卒者に対する求人は著しく減少し、求職希望と求人希望との不適合が拡大し、就職をめぐる環境が激変している。そのため、社会に対する希望が薄れてきたなか、主体的に自分の夢を描くことが出来ない子どもが増える傾向は高い。

昨年度は、小学校6年生をモデルに小中連携を図ったキャリア教育について、人間関係形成能力・将来設計能力の向上を図ることにより、今日的な課題を克服できるのではないかと研究を進めた。今年度、中学校では発達段階を考え、意思決定能力を加えた研究を進めてきた。第2学年では、職場体験学習が導入され、生徒の希望に沿って実際に働くことを体験する機会も、キャリア教育の一貫として進められている。

本題材は、その前段階である「自分自身の生き方」について関心を高めるものである。この学習により、人生とはどういうことを指すのかを考え、人生における様々な価値観に触れさせたい。そうすることにより、自分自身の将来について、希望を持つようとする生徒が育成できようとする。

(2) 生徒の実態

将来の夢について具体的に考えている生徒は、45.8パーセントである。傾向をみると、両親の職業に影響を受けている。これは、家庭で親が働く姿を見ることや、親の願いを子どもに話すことによることもあると思われる。具体的に考えていない生徒は、地元高校への進学を考えている者が多いが、とりあえず高校へという程度で、何のために行くかという目的意識は薄い。

「自らのことを知る」題材では、学級の多くの生徒が自らの長所をあまり見つけることができなかつた。しかし、一生懸命に仲間の長所を見つけようとする姿勢がある。素直で、前向きに学校生活を送ろうとする生徒が多いが、学校外からの評価を受ける機会が少ない。自分の持つよさに気づくことにより、今後の生活を明るく希望を持って過ごすことができる集団だと考える。また、一人一人の可能性を引き出していくことにより、主体的に自分の将来について考える生徒は増えていくと思われる。

(3) 指導にあたって

本時では、資料として違った生き方をする3人を、ビデオを分けて視聴する。展開場面での1回目の視聴では、心に残る場面や言葉を取り上げながら意見を交流させ、さまざまな生き方や価値観について迫りたい。展開部のまとめを教師が行うことにより、本時のねらいを明確にさせたい。終末に、2回目のビデオを視聴する。同じチームの中でも、最後まであきらめず、自ら人生を前向きに生きている仲間がいることに共感させたい。終末のビデオ視聴後は、教師がまとめ過ぎず、生徒に投げかけた形で終ることにより、余韻を残し一人一人がそれぞれの考えを持つであろうと考える。

3 本題材のねらいと評価規準

(1) ねらい

さまざまな人生のあり方を知り、自分の人生を支える何かを見つけたいと感じるとともに、自分の将来に関心を持つことができる。

(2) 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 自分の将来に関心を持つことができる。 人生について興味を持ち、自分の将来を主体的に描こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな人生や、その人なりの価値観があるということを考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 人生について考え、将来についての夢や希望を自分なりの言葉で書くことができる。 互いの考えを交流しながら、自分の考えを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな人生のあり方や、その人なりの価値観があることを理解している。 将来をよりよく生きるために、目標を持って生きることの大切さを理解している。

(3) 本題材のキャリア教育で育みたい能力（領域）

意思決定能力 自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行う能力。また、その過程で課題や葛藤に積極的に取り組み、克服しようとする能力。

将来設計能力 夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、将来の人生や職業生活における夢や関心を、主体的に描こうとする能力。

4 指導計画

時	ね ら い	主な活動内容	指導・支援・配慮事項
事前 短学活	<ul style="list-style-type: none"> 働く家族から、働くことの希望や喜びを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート用紙を生徒に配布し、家庭で家族に記入してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートは、働くことの喜びや、生きがい記入できるようにする。また、社会に貢献できることや、生き方について明確にできるような内容にする。 家族へのアンケートとしたが、難しい場合は学校の教師に聞く等して配慮する。
本時 1 2	<ul style="list-style-type: none"> 生きがいとは何なのかを考える。 さまざまな人生を送る人々を知り、何年経ってもそれぞれが生きがいを持って人生を過ごしていることに気づかせる。 「生き方」について考え、自分自身の人生に希望を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果から生きがいとは何なのかを考えようとする。 ビデオを視聴し、その中から印象に残った場面や言葉をワークシートに書く。 各班に分かれて、意見を交流させ、発表する。 ビデオを視聴し、更に違った人生を歩んでいたチームメイトがいることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果を聞き、家族が一生懸命に、喜びや生きがいを持って働いていることを知る。 導入は教師がテンポよく進め、展開へとつなげるようにする。 印象に残ったことや、場面を見つけることでビデオを見る観点を焦点化させたい。 今久留主と桑田2人の生き方を見て、生きていく上での価値観の違いはあることに気づかせたい。 話し合い活動がうまく行われるように、事前に班内での役割分担をしておく。 ビデオ視聴する前に、チームの中にもう一人違った生き方をした人がいたことを話をする。 視聴後は、教師が本時のねらいに気づかせ、生徒への投げかけで余韻を持たせる。教師が授業をまとめ過ぎたり、同一方向へと持っていかないように、配慮する。 それぞれの生徒が関心を持ち、思考したところで本時を終了させることにより、個に応じた価値観が育成されると考える。
事後指導	<ul style="list-style-type: none"> 本時で学習したことを個人にフィードバックさせ、今後の生活に目標を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業終了後に、本時の感想をワークシートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 「生き方」について考える時間を持たせ、自分の将来に希望を持たせる。 生徒に応じて、個性や考え方の違いを考慮しながら、今後の生活を前向きに送れるよう教師からの言葉を記入する。
次時 2 2	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身の人生の関心を高めるとともに、仲間の考えを聞いて、人生を積極的に生きていこうとする姿勢を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表会 各自が書いた感想を発表しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> 感想を発表しあう。前時の授業で感じたことや考えたことなどを、発表する。発表を聞いて、自分の考えをワークシートに書く。 最後まであきらめないでやり遂げたことが青春時代にあったからこそ、大人になった今も、人生を前向きに生きることが出来ることを共感させたい。 前時とのつながりをしっかりと押さえて、これからの人生に夢や希望を持って、学校生活を送っていけるよう支援する。

5 本時の指導

(1) ねらい
生き方について考え、自分の人生に希望を持つ。

(2) 評価規準
関心・意欲・態度
人生について興味を持ち、自分の将来を主体的に描こうとしている。

思考・判断
さまざまな人生や、その人なりの価値観があるということを考えている。

(3) 関連の深いキャリア教育の領域 ◎意思決定 ○将来設計 ○情報活用

(4) 展 開

段階	活動の流れ	生徒の活動	・指導上の留意点 ○評価の観点<方法>
導 入 (5)	1 働く家族に対して実施したアンケート結果を提示する。	・人生に対しての喜びや、生きがいがある家族にあることを知る。	・事前のアンケートから、5つ程度のキーワードとなる言葉を黒板に貼り出す。展開への導入がぶれないようにする。 ・テンポよく進めるようにする。 ・アンケート結果から、本時の方向性を明確にする。
	生き方について考えよう		
展 開 (35)	2 ビデオ1を視聴する。 (心にいつも甲子園4分) 3 「印象に残ったことや言葉」を書く。 4 班体制になって意見を交流させる。 5 班の代表は意見を発表する。 6 教師のまとめ。	・ビデオを視点を持って視聴する。 ・ワークシートを書く。 ・自分の考えを進んで発表する。班員の考えを受容的な態度で聞く。 ・班の意見を発表する。 ・さまざまな生き方があることを知るとともに、その価値について考える。	・あらかじめビデオの登場人物「今久留主(いまくるす)、桑田」について話しておく。 ・ビデオ1を視聴するに当たって、ワークシートの記入の仕方を指導する。 ・「印象に残ったところや言葉・場面」は、いくつでもいいので書くように指導する。 ○ビデオを視聴し、「生き方について」自分なりの考えを持つことができる。 <感想・観察> ・事前に班での話し合う分担を明確にしておく。 ○班の仲間の考えを理解し、自らも意欲的に話し合い活動に参加することができる。 <観察> ・人それぞれに、生き方における価値の違いがあることに気づかせたい。 ○人それぞれに、生き方における価値の違いがあることを理解できたか。 <観察>
終 末 (10)	7 ビデオ2を視聴する。 (心にいつも甲子園4分)	・ビデオを視聴する。 ・自分の生き方について考える。	・最後まであきらめず、頑張った青春時代があったからこそ、それが支えとなり大人になった今でも、人生を懸命に生きている清水さんの姿に共感させたい。 ・教師がまとめ過ぎず、余韻を残したい。 ○自分の将来に希望を持ち、これからの生活を希望を持って生きようと思えることができる。 <感想> ・本時終了後、感想を書く。次時の発表会で感想を発表しあい、本時の内容を更に深める。

